地域密着型サービス事業者　自己評価表

（ 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 ）

事　業　者　名	グループホーム いちえ	評 価 実 施 年 月 日	平成20年12月31日
評価実施構成員氏名	山根 京子　松浦 善隆　山部 恵子　渡辺 涼子　大山 剛　田中 美由紀　立花 幸子　西野 公恵		
記　録　者　氏　名	山根 京子･松浦 善隆	記　録　年　月　日	平成21年1月27日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 １．理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	認知症の携わる中で暮らしを支えながら、自立の支援、尊厳の維持を目標としている。		より地域の中で存在を示し、地域の中に溶け込めるようにしていく。。
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	目の届く場所に理念を掲示して、いつでも確認ができるようにしている。忘れることのないう、職員一人一人が意識を持ちケアに従事している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	誰もが見れる場所に理念を掲示している。運営推進会議でも理念に基づいた活動を報告している。		
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や外出時などに挨拶を交わしている。避難訓練やホーム内で行う行事へ参加を募っている。		看板などなく建物が何か理解していない方もいる。また、グループホームが何かを知らない方もいるので、グループホームを知ってもらい気軽に立ち寄れるようにしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の行事参加、日常的な買い物や散歩などの中で挨拶を交わしたりしている。		
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホームでの行事の際には近隣に声を掛け参加を勧めながら交流を一歩一歩図っている。	○	地域の方に様々な形でホーム、認知症を理解していもらえるように積極的に交流を図っていく。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員１人ひとり行い、現在行っているケアを振り返り、見直す機会となっている。		常に自分達のケアを評価しながら、より良くしていく意識を持って話を大事にしながら行なっている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で出された意見や要望をもとにして、迅速に反映するように職員で話し合いながら、より良い質の向上を進めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	新しい情報を教えてもらったり、参考資料がFAX等で届くので、それを職員間で確認してケアに活用している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	制度の利用を検討している入居者もいるので、職員は大まかには制度の理解をしている。	○	研修などを通じて身近な制度と意識し理解を深めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	現在、抑制や虐待は全くない。日々のケアの中で言葉使い一つからも注意し、職員間で意見の交換ができるようにして、防止に努めている。		
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている。	契約時は重要事項説明書、契約書ともにゆっくりと説明そ、疑問点を解消しながら行なっている。また、契約後も質問などは常に受け付けて納得してもらえるように配慮している。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、苦情などは重く受け止めて、迅速に検討して改善できるように努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族に毎月手紙を送り、日々の暮らしぶりや病気のことなどの体調といったこと、取り組んでいることを報告している。また、受診や結果などはすぐに電話で伝え来訪時にも説明している。領収書、出納帳の確認をしてもらいいつ、何にいくら使ったかを伝えている。	○	職員の異動など、尋ねられることがあるので伝えていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ユニット前の意見箱の設置や、面会時・電話などを通じて意見を聞くように心がけている。要望や意見は職員で検討してケアに反映するように努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のカンファレンス・会議を通じて意見や提案を聞き、業務内容やケアに反映させている。また、管理職は職員とのコミュニケーションを積極的に図るように努めて、意見などが話しやすい環境を作るように努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況に応じて職員体制を勤務の延長やシフトの変更を話し合い実行している。緊急時には管理職や近隣職員がすぐに対応がとれるようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は最小限にし、新しい職員が入職した際には、既存の職員が利用者との仲介となり、馴染みの関係を作りやすくしている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員に合った研修を選別したり、希望に添って外部の研修に参加している。また、毎月、事業所内で勉強会を開催し知識・意識の向上に努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	勉強会を一緒に行い事例検討会などを通じてケアの向上に努めている。また、管理職は他事業所の管理職と定期的に研修会を開催し交流を深めながら、管理職としての知識向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理職は職員とのコミュニケーションを図っていく中で、悩みや相談を聞き、精神的に安定を図れるように支援ている。また、親睦会や、ユニットから離れて過ごせる場所を設けている。	○	職員との定期的な個人面談を検討している。ゆっくりと話し合う機会を設け、個人の目標設定を作ることで、職員の意欲の向上やスキルアップに繋げて行きたい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	研修で学んだことは伝達講習会との形で皆に伝えるようにしている。また、入居者の担当制で責任感を持ち働ける環境としている。		
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援 １．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居相談から本人や家族より不安やニーズを確認して、本人・家族、事業所間で話し合いながら入居までに様々な手段や方法を提案し納得と安心した上で入居できるように配慮している。また、生活環境を勘案し安心できる雰囲気作りを心がけている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談の際にはじっくりと話を聞ける時間を設けている。生活の中での不安や意向を確認しながら、家族の気持ちや思いを理解し、職員で何ができるかを検討している。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族との話し合い意見交換で主訴や不安を把握し、出来ること出来ないことを明確にした上で、その時に最良と考えるサービスを提案している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	何度でも見学にきてもらい、ユニットの雰囲気を感じてもらうようにし、少しでも職員や入居者との顔見知りの関係を築けるようにしている。また、不安なことはないか本人や家族に尋ねるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	生活の中でのコミュニケ―ションから入居者のできること、できないことを把握し、できないことをお手伝いしながら「一緒に行なう」ことを実践している。 得意なことを尊重しながら職員、入居者互いに助け合える関係である。		本人のやりたいことを引き出し、生活にハリのある楽しみを持った支援をしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族より本人の情報をもらい、ホームからは日常生活、体調、活動などを伝え、協力し合いながら本人がより良い生活が送れるようにしている。		細かなことも話してもらえるような家族との関係を築き、本人の生活が楽しくなるようにしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	手紙や来訪時に近況を報告している。来訪時もゆったりと和やかに過ごしてもらえるようお茶などを用意している。		行事や活動にも参加してもらえる働きかけと気軽に立ち寄れる雰囲気作りをしていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	墓参りや外食など、ご家族や知人と一緒に行けるようにしている。 知人の手紙や電話など自由に交流できるようにしている。		日常の何気ない会話に現れた人、贈り物や手紙が届いたら手紙などでお返しが出来るようにしている。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者の関係を把握し孤立しないように心がけると共に、性格や生活歴、趣味などを考え共通する話題を提供している。	○	入居者の得意なことを披露する場の提供などで互いを認め合う関係作りをしていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	家族同様に本人を知っている良き理解者として・専門家として退去後も相談にのっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃よりどのように感じ、希望があるのか、信頼関係を築けるよう、一人一人と会話を大切にしている。入居者やご家族含め検討し納得してもらえるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前やご家族の来訪時など随時情報を得られるように働きかけ、毎月のカンファレンスで検討している。		入居前の生活にホームの生活が近づけるような情報の収集に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	月々違う状態の中で、状態に合わせたことをできるように把握し、その時々に合った生活を送れるよう努めている。（できる限りの可能性を引き出しながら）		精神面、体調、身体状況など、連携を職員間でとり情報を共有することで把握している。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	日頃の関わりや身体・精神面の変化からニーズや希望を汲み取り、また、家族からの情報・要望を勘案しながらカンファレンスや情報交換で検討してケアプランに反映している。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の入居者の状態を確認しながら記録に記載して、どのような変化があったか、必要なことをその都度、考えながら毎月のカンファレンスで話し合いケアプランに反映させるように努めている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は個人記録に記載し、全職員が把握しなければいけないことは連絡ノートに記載して情報の共有を図っている。申し送りの際も重要なことは1週間は口頭でも申し送りをし漏れがないようにしている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の状況変化に適応できるように支援している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○　地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している。	音楽などのアクティビテイではボランティアの参加を依頼している。消防の協力を得ながら避難訓練を年２回施行している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、要望がなく実施していない。		要望時、迅速に対応できるように努める。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議にて、グループホーム内の状況について報告をしている。	○	本人の意向、必要に応じて権利擁護や総合的・長期的なケアーマネージメントなどについて協働していきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	24時間連絡が取れる体制になっており、提携病院の医師が週2回訪問診療で来訪され顔なじみの医師となり相談もしやすい雰囲気になっている。 また、訪問看護も週1回あり、体調などでも随時相談できている。		今後も提携医療機関と連携を密にしながら随時相談できる環境にしていく。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要に応じて、専門病院等への通院、受診の支援をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週2回看護師が来訪し体調などの相談ができている。入居者も互いを知る関係となりつつあり、円滑な対応ができている。また、来訪以外でも電話などで気軽に相談ができる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	日頃より定期受診は必ず行い、個人についての情報を密に交換している。早期の退院に向けて退院後の細かな必要な情報をもらい実践している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人・家族から入居時や状態に応じて、その都度確認している。受診の際に本人や家族の意向を医師に伝えるともに、医師の意向を家族にも伝えて方針を検討している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること･できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	契約時に終末期の話をする他に状態の変化に応じて家族・かかりつけ医と共に、今後、起こり得ることに関して相談や意向を確認し取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族・本人に関わるケア関係者間で事前に話し合い情報の交換をするようにしている。馴染んだ環境が継続できるように支援している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	人生の先輩、目上の方として尊敬し、言葉遣いや態度などその人に対し適切であるよう努めている。		職員は入居者との関わりの中で言葉遣いや対応が良かったのかを考え、意識を持てるようにしていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	あらゆる場面で本人の意志確認を大切にし、利用者に合わせて話し方や動作など工夫しながら関わるようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事やアクティビティにもよるが、自由に過ごせるよう支援している。その方の好むこと、望むこと、趣味を理解して支援している。		一人一人の生活のペースを大切にした支援をしていきたい。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の希望に添った理、美容室に同行し、行けない人については訪問での理、美容をお願いしている。		好み、意向に添ったことを大切にしていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	好む食事や食べたい物、季節感を取り入れながらメリハリのある献立になるよう心がけている。 盛り付けや簡単な調理、食器洗いなど職員と一緒に行なっている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の食べたい物は買い物時に購入したり、提供する飲物なども幾つかの中から選んでもらい少しでも希望に添えるようにしている。		食べたい物、飲みたい物を職員が引き出せるような関わりをしていく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンの把握や希望時にて、本人に合ったトイレの誘導に努めている。		安全で気持ちよい排泄ができるよう、サインを見逃さないようにしていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望や気分、体調、時間など本人に合わせた入浴を心がけている。		本人の希望に添えるよう臨機応変な対応をしていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日常生活に支障のない範囲内で入床、起床など本人に任せている。 休息も適宜、体調などに合わせてすすめている。		生活パターンの把握に努め、一日がメリハリのあるものにしていく。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人、家族から情報をとり、昔得意だったこと、好きなことが発揮できるよう支援している。又、できないことをどのようにしたらできるかを考え、楽しみが増えるように努めている。		本人、個々の能力や状況を把握し、出来るためには何をするべきかを考えて行なうことが増えるようにしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に金銭は事務所内で管理されてもらい、必要、希望に応じ使用している。 又、本人の物など一緒に買い物へ行く機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物などで屋外へ出る機会を作っている。 又、通院時などの帰りに外食もすすめ、気分転換を図れています。		車椅子の入居者でも気軽に外出ができるよう、一日の時間配分を考えていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者の希望に対応できている。よさこいソーラン見学や紅葉見学など職員のアイデアもおりまぜながら行なっている。		家族も含めた計画ができるようにしていく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ホームの電話は自由に使用してよい環境で電話、手紙もできないことを手伝いながら行なっている。		プライバシーに留意しながら、時には代筆など行なうことができている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時間に設定はなく、自由に来ていただけるようにしている。また、来訪時には居室や居間などでゆっくりと過ごしてもらえるようにしている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	疑似体験の一日体験研修を行ない、利用者の立場になって過ごすことで、利用者の理解と身体拘束とは何かを考える機会を作り、研修後に報告会を実施することで職員全員でケアの見直しと学ぶ機会を設けている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関の施錠はない。常に入居者の所在を意識し確認しながら、落ち着かない方には行動を見守ったり付き添ったりしている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に事故などがないように安否確認をしている。 自室で過ごされている方なども、水分を促しながら訪室し、夜間は定時、必要時に訪室している。		プライバシーを尊重しながら安否の確認ができるよう、トイレなどでは、時に音を頼りにしながら行なっている。
68	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	石鹸、洗剤など自己管理できる入居者は自室で管理してもらい、使用時見守り、説明をして事故がないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々、入居者の心身の状態を把握し、危険性のあることなど防ぐ努力をしている。また、勉強会や避難訓練を定期的に実施し、事故防止に努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	提携機関の医師に救急時の対応の指示をもらっている。 また、普通救命講習や緊急時対応マニュアルがあり、消防署など外部からの指導も受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力のもと避難訓練と消火訓練を毎年2回実施している。また、近隣の方にも参加を呼びかけている。職員間野連絡網も用意している。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	入居者の状況を手紙、電話、来訪時に伝えている。また、入居者が台所仕事を一緒に行なうリスク等の説明をして家族とも相談、話し合いのもと実践している。		個々のリスクを把握し、できる限り自由な生活を送れるよう工夫、努力を維持していきたい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	午前、午後2回のバイタルチェックをし提携医療機関にFAXしている。 また、体調の変化（熱、顔色不良などのサイン）に気付けるようにし、職員間で情報の共有を行ない、医師や看護師に連絡し早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服管理を行ない、変更時には申し送りや連絡ノートなどで全員に情報が伝わるようにしている。禁止食や副作用の確認もしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	乳製品や食物繊維の多い食材の提供、活動などで予防できるように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	入居者に合わせた口腔ケア、声掛け、見守り、介助を行なっている。。 また、夜間は義歯の洗浄、消毒を行なっている。定期的な歯科検診も行なっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者の嗜好を知り、１人１人に合った食事量、水分量を確保できるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等）	感染予防マニュアルを活用し、全職員が同じ対応ができるようにしている。 インフルエンザの予防接種やノロウイルスなどの対策に塩素系の消毒液でテーブルや手すりなど消毒している。		今後も感染症の危険を知り、対応してきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理マニュアルがあり、調理前の手洗い・うがいの徹底、ノロウイルス対策として、塩素系の漂白を用いている。また、台布巾・食器拭き・手拭の漂白はこまめに行ない、使用器具はその都度消毒をし、夜間帯には1日に使用した器具を消毒している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	近隣の方が建物前の自動販売機を使用したりされる。 また、玄関には誰でもわかるように職員手作りの表札、季節の飾りをしている。		建物の中、グループホームにも興味を持ってもらえるよう親しみやすい雰囲気作りをしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者本人の作品や季節の飾り、入居者の写真などで穏やかな親しみのある空間作りに努めている。		入居者にとって家庭的、親しみやすさとは何かを今後も考え、雰囲気作りをしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の端々にソファーを設け、気軽に過ごせるよう配慮している。入居者同士で座りお茶を飲んだり、家族で過ごせるようにしている。		休める場所を設けることで運動（歩行中）に休むことができたりと多様な使い方ができている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に自宅で使用していた家具を持ってきてもらい、使い慣れた物で生活をしてもらっている。 本人の希望や家族との相談などで自由に模様替えや持ち込み、購入している。		本人の居心地のよい部屋、空間作りと、心身状況により安全に配慮しながら行なっていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室、共有空間に温、湿度計を用意し、空気の入れ替えや暖房の調整、加湿器の使用にて調整をしている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、階段、浴室、トイレなど各所に手すりを設け、掴まる安心感と安全に配慮している。洗面台にはシャワーノズルがついているので、車いすの方、麻痺のある方でも使用しやすくなっている。		身体状況を考えながら必要に応じ、椅子の位置などを今後も考えていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	必要な入居者には居室前に写真入りの表札などを用意しトイレ、脱衣所には案内板を設けている。 トイレは夜間スポットライトを照らし理解しやすくなっている。		入居者のできる力を見極め、不安となることの予測発見をし安心して暮らせるようにしていく。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑作りで入居者、職員が一緒になって野菜などを育てている。又、季節を感じるために散歩をし落ち葉を拾ったり、運動とともに気分転換できる場となっている。		畑など更なる充実を図っていく。

Ｖ．サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない	普段の関わりの中や動作・仕草などから想いを感じるようにし、希望や意向に添えるように努めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	お茶や活動、食事などの中でゆったり過ごすよう努めている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない	本人の意向に出来るだけ添って、ペースを把握して関わるようにしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない	適切な介助を心がけ、本人の能力を生かすような本人を尊重した支援をしている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない	散歩や外食など、希望に添えるように支援している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない	訪問診療や訪問看護の利用、本人の希望時などは主治医にも随時受診している。
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない	本人の状況や生活・体調に合わせて休息や入床・起床時間など柔軟に考えて行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ②家族の２／３くらい ③家族の１／３くらい ④ほとんどできていない	面会時は笑顔で丁寧な挨拶を心がけ家族が話しやすい環境・雰囲気作りを図っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	以前は近隣の小学生が遊びに来ることがあったが現在は少なくなっている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	地域の行事などへの参加で交流を図り、理解を深めてもらえるように働きかけていく。
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の２／３くらいが ③職員の１／３くらいが ④ほとんどいない	役割や楽しみ・やりがいを持つように働きかけ向上心を持ってもらうように促している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２／３くらいが ③利用者の１／３くらいが ④ほとんどいない	表にはでない想いや主訴が感じとれるように日々関わっている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２／３くらいが ③家族等の１／３くらいが ④ほとんどいない	家族の想いを感じ、ケアに反映できるよう図っている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
　一人ひとりの力を発揮できるよう、また、慣れ親しんだ中での生活ができる様に、環境と共に生活も本人のペースに添えるよう心がけ、家庭的な雰囲気を大切にしている。 地域に根ざしたグループホームを目指し、町内会の行事には積極的に参加、また、グループホームでの行事も近隣の方々に呼びかけをしている。
（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点
　等を自由記載）